

日本脳外傷友の会

第 18 回 全国大会 2018 in 三重 アピール文

今回の全国大会のテーマは「未来につなげ支援の輪—高次脳機能障害の支援の充実を目指して—」です。その理由は、「高次脳機能障害」という用語は、以前よりも知られるようになってきたものの、支援内容についてはまだ課題があるからです。高次脳機能障害者支援には、地域差が拡大しているだけでなく、高次脳機能障害者の個別性に対する細やかな配慮や、発症からそれぞれのライフステージに合わせた支援が不十分です。

そのような現実を踏まえ、当会は高次脳機能障害者とその家族に必要な施策の充実を図るため、「日本脳外傷友の会」から「日本高次脳機能障害友の会」へと名称を改めます。

そして、私たちは、すべての高次脳機能障害者とその家族が、高次脳機能障害による障害を軽減し、充実した日々を送ることを可能にするため、次の1点を強くアピールします。

高次脳機能障害支援法の成立を目指し、一般社会への啓発をより進めていきます。

現行の福祉制度は従来の障害者に視点を当てたものが多く、必ずしも高次脳機能障害に適しているとはいえません。例えば、「自立訓練（機能訓練、生活訓練）」にしても期限を決めることなく、その障害像に合った利用が不可欠です。また、小児の高次脳機能障害に対しても、その特性に合った支援がなされず、障害者プランにも高次脳機能障害児の支援は取り上げられていないのが現状です。高次脳機能障害支援法が成立することにより、社会一般の啓発が進み、全国どこでも、共通した質の高いリハビリテーションと高次脳機能障害者と家族に対する支援が受けられるよう活動していきます。

平成30年10月20日

日本脳外傷友の会第18回全国大会 in 三重、参加者一同